

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	横手市立黒川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	14	7	15	14	18	13	0	81	

研究の概要

1 研究主題

「わかった」「楽しい」「もっとやりたい」が実感できる子どもの育成
----------------------------------

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全 学 年 算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であるため） 5・6年 理科（実験・観察等において個人差が出やすいため）
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「わかった」「楽しい」「もっとやりたい」が実感できる子どもの育成 研究の見通し（仮説） 学習環境を整え、個に応じた教材を開発したり、指導形態を工夫したりすることで確かな基礎的学力が向上し、子どもたちは、「わかった」「楽しい」「もっとやりたい」を実感し、確かな学力を身に付けていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 少人数の中での個に応じた指導のための指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TT指導スタイルの研究と実践</li> <li>・体験的・問題解決的学習の重視</li> <li>・中学校教科担任とのTT</li> </ul> <p>(2) 学習意欲を持続させるための個に応じた教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意欲や学習スタイルに合わせた効果的な教材づくり</li> <li>・使用教材・教具の集積とその改善</li> </ul> <p>(3) よりきめ細やかな指導に生きる評価方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けさせたい力の分析・整理</li> <li>・レディネテスト実施と一人一人の形成的評価の重視</li> <li>・自己評価する場面の設定とその活用（学習ノート等）</li> </ul> <p>(4) 確かな授業を支えるための学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲や課題解決につながる掲示（算数コーナー等）</li> <li>・生活に関するアンケート等の結果分析と家庭への働きかけ</li> </ul>
--------	--

[ 1 年次 ] 研究計画の立案 実態調査 授業実践  
先進校視察 まとめ

平成16年度

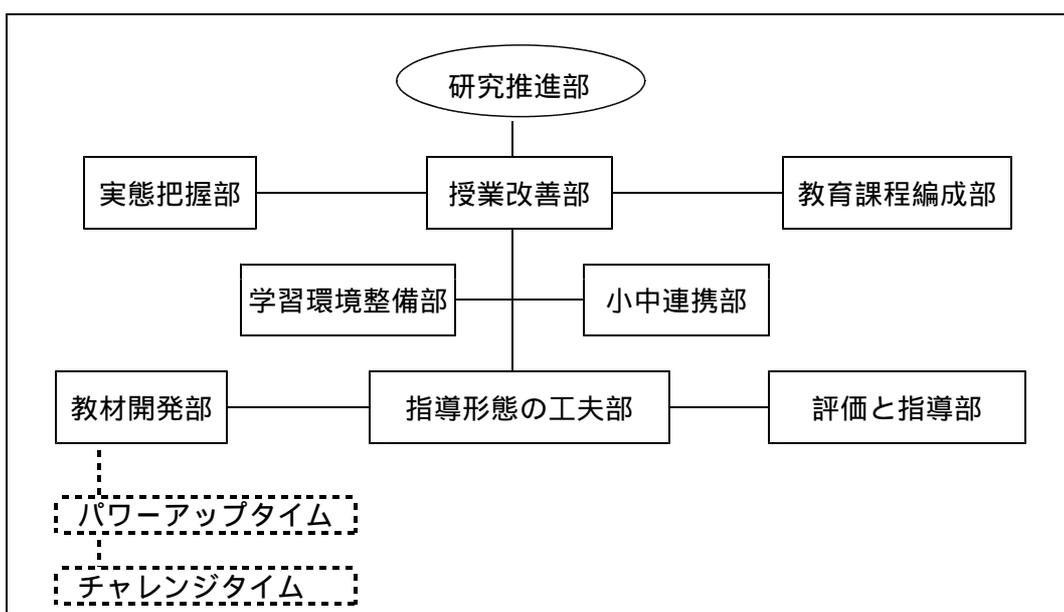
テーマ  
「わかった」「楽しい」「もっとやりたい」が実感できる子どもの育成  
研究の見通し（仮説）  
学習環境を整え、個に応じた教材を開発したり、指導形態を工夫したり  
することで確かな基礎的学力が向上し、子どもたちは、「わかった」「楽  
しい」「もっとやりたい」を実感し、確かな学力を身に付けていくであ  
らう。

研究の内容・方法  
少人数の中での個に応じた指導のための指導方法の工夫

- ・TT指導スタイルの研究と実践
- ・体験的・問題解決的学習の重視
- ・中学校教科担任とのTT
- 学習意欲を持続させるための個に応じた教材開発
- ・子どもの意欲や学習スタイルに合わせた効果的な教材づくり
- ・使用教材・教具の集積とその改善
- よりきめ細やかな指導に生きる評価方法の工夫
- ・身に付けさせたい力の分析・整理
- ・レディネステスト実施と一人一人の形成的評価の重視
- ・自己評価する場面の設定とその活用（学習ノート等）
- 確かな授業を支えるための学習環境の整備
- ・学習意欲や課題解決につながる掲示（算数コーナー等）
- ・生活に関するアンケート等の結果分析と家庭への働きかけ

[ 2 年次 ] 研究計画の改善 実態調査 授業実践  
研究の公開 研究のまとめ

( 3 ) 研究推進体制



1 研究成果

**少人数の中での個に応じた指導のための指導方法の工夫**

自分で選んだ教具を操作しながら解決していく場面では、教具に合った支援をしていったことにより自分で解決してみたいという意欲が高まり、理解につながった。また、どのように考えたかをノートにまとめていく活動も行っていったので全体の場で説明する力も付いてきている。(しかし、ここにも個人差があるため、他の教科・領域等で表現する力を育てていく必要がある。)

習熟度別やコース別の少人数学習を取り入れることで子どもたちが自分に合った学習方法を選びとって学習を進めることができた。これにより、子どもたちの学習意欲が高められた。

学習に選択の幅が広がったことにより自分で課題解決していこうとし、理解していくことにつながっている。2人の教師の説明を聞いて理解を深めたり、自分の考えを補ったりしてより積極的に学習を進めていく姿が見られた。子どもたちは課題別に分かれているが情報交換の時間をとることにより子どもたちどうしによる学習の進め方の学び合いができた。

教具の使い方やノートの使い方等についても細かに指導でき効果をあげることができた。

[ 小・中連携授業 ]

中学校教科担任の専門性を取入れた指導を行うことにより、授業での子どもたちの思考が深まるとともに、教師側の研修にもなった。

**学習意欲を持続させるための個に応じた教材開発**

子どもたちが興味・関心をもつ教材を取り上げ、その使用教材を集積し分析することにより、より充実した教材となった。

子どもの実態に合わせて教材・教具を簡単なものから難しいものを準備しておくことで、分かる子に対しての手だてにもなるし、個別指導の時間も確保しやすい。

**よりきめ細やかな指導に生きる評価方法の工夫**

身に付けさせたい力を作成することにより、単元のねらいが明確になりポイントをおさえながら指導・評価することができてきている。

授業の最後に感想を書かせることにより、子ども自身が1時間の課題を意識し、それについて分かったことをまとめたり次の課題を見付けたりする力が付いてきている。また、教師がその感想を読み、授業について反省をしたり個に応じた指導の方策を考えたりすることができた。

**確かな授業を支えるための学習環境の整備**

[ 算数コーナー ]

算数コーナーの掲示を授業の中で前時の振り返りに用いたり、本(次)時につながる考え方を参考にしたりするときに利用でき授業に生かされる回数が多くなってきている。(教師・子ども共に説明する場合)

問題コーナーをつくったことで、問題作りに熱中する姿が見られた。

[ 家庭への働きかけ ]

朝読みで、一日の生活のリズムができつつある子が増えた。全校体制で取り組むことにより保護者の協力も得られるようになった。「読む」ことへの意欲の高まりもみられる。木曜日のパワーアップタイムでの音読、全校一斉で行っている15分間の昼読、国語の時間の読みなどにその効果が見られる。

## 2 今後の課題

### **少人数の中での個に応じた指導のための指導方法の工夫**

TTの時間を設定し時間割に位置付けたが、人や時間を柔軟に編成できない点が出てきた。年間計画を組む上で重点的に行っていく単元をはっきりさせどのような指導形態をとっていくかの見通しをもつ必要がある。

個に応じたきめ細かな指導をしつつも、全体で練り合いながら高め合うための指導方法を考えていく必要がある。

中学校と連携した授業をする際、事前の話し合いをもつ時間がなかなかとれない。また、連携することができる単元等について早い時期に話し合いをもつことも必要である。

習熟度別の学習を組む際には、さまざまな面で配慮が必要になる。(子どもへの説明、親への説明、コースの選択の仕方等)

課題や考え方に対して厳しい意見を出し合いながら学び合っていこうとする学級づくりに努めなければならない。

### **学習意欲を持續させるための個に応じた教材開発**

より発展的な課題を求めている子どもに対しての手だてが不十分であった。

個に応じるためには、しっかりした実態把握と教材開発が課題である。

教材室には、使える小道具がたくさんあるので、教材の整理とともに教材・教具の研修をしていく必要がある。

### **よりきめ細やかな指導に生きる評価方法の工夫**

評価計画を立てる際、子どもの具体的姿をイメージした評価規準にする必要がある。

今日、何を学習し、何が分かったか(分からなかったか)めあてと振り返りかえりの一体化を図り、子どもたちが意識できるようにしていく必要がある。

### **確かな授業を支えるための学習環境の整備**

算数コーナーでは、大切な用語と思考過程を示すものを区別し、より子どもたちの学習に生きる掲示方法・内容を考えていく必要がある。また、教室だけでなく、興味を引く掲示を整える必要がある。

パワーアップタイムとの関連性等を考え、より授業に生かされる効果的なものにしていく必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組

学習環境・生活についてのアンケート(5月・3月 全家庭)

標準学力検査(4月 国語・算数)

学習状況調査

学習に関するアンケート(TT指導についての意識調査 7月・12月)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本校授業研究会(6月・9月・11月・2月)

横手西地区小中学校への授業公開

県南地区「確かな学力」向上推進協議会(1月)

本校の取り組みについてワークショップ形式で発表

公開研究会

平成16年7月と11月に予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |   |  |  |
|----------------------|---|--|--|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校   | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校  |  |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上                                       | <input type="checkbox"/> 7～12学級<br>19～24学級   |  |
| 【指導体制】               | <input type="checkbox"/> 少人数指導<br>一部教科担任制   | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導<br>その他   |  |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語<br><input type="checkbox"/> 生活<br><input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会<br><input type="checkbox"/> 音楽<br><input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 算数<br><input type="checkbox"/> 理科<br><input type="checkbox"/> 図画工作<br><input type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有  | <input type="checkbox"/> 無   |  |